

第5章 なりたのホタル・湧水・ドングリ

なりたのホタル

ここでは、ホタルについて少し勉強してみましょう。

日本では、古くからゲンジボタルやヘイケボタルといった光るホタルが夏の風物詩として、多くの人々に親しまれてきました。

日本列島は南北に細長く、多くの島々があるため、南西諸島を中心とした島々に固有の種が分布しており、日本全国で約50種のホタルが生息しています。なお、世界全体では、なんと2,800種ものホタルがいます。

ホタルは、幼虫期に水中で生活するものと、陸上で生活するものに分けられます。世界的に、水中で生活するホタルは少ないですが、ゲンジボタルやヘイケボタルは、幼虫期に水中で生活するホタルに含まれます。

幼虫が水中で生活するホタルは、産卵する場所や蛹を作る場所が、水際のコケや土の中に限られます。護岸整備などで、このような環境がなくなると、ホタルは生息できなくなってしまうのです。

私たちが暮らしている成田市でも、昔は多くのホタルがあちこちで見られましたが、最近では数が少なくなり、見られる場所も限られています。

現在、成田市では、ゲンジボタルはほとんど見られなくなりましたが、ヘイケボタルは夏に水田や水路の周辺で見ることができます。

代表的なホタルであるゲンジボタルとヘイケボタルの特徴は、下の表のとおりです。

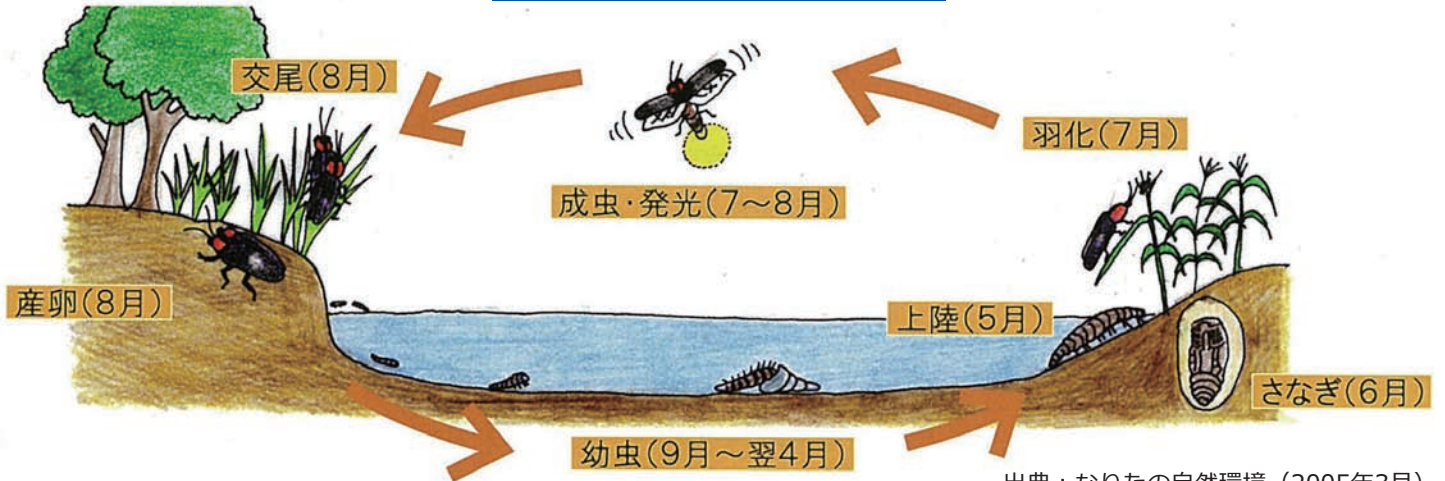
ゲンジボタルとヘイケボタルの違い

ゲンジボタル	種名	ヘイケボタル
 胸部に黒色の十字の紋	体の特徴	 胸部に黒色の縦の紋
メス：約2.0cm オス：約1.5cm	大きさ	メス：約1.0cm オス：約0.8cm
6月中旬から7月上旬	成虫の時期	7月から8月中旬
1分間に約20回	光る回数	1分間に約80回
河川（流水）	すんでいる場所	水田、池（止水）
カワニナ	幼虫の餌	タニシ、モノアラガイ
弱い	水質汚染の対応力	強い

成田市で見られるヘイケボタルの一生は、下の図のとおりです。

ヘイケボタルは、成虫が7月から8月中旬にかけて現れ、夜になると水田や水路の周辺で光りながら飛んでいる姿を見ることができます。交尾の後、雌は8月頃に水際に生えているコケや土の中に産卵します。卵からかえった幼虫は、水の中に入り、モノアラガイなどの淡水性の小型の巻貝を食^{さなぎ}べながら成長し、幼虫のまま冬を越します。次の年の5月から6月頃に陸に上がり、水際の土の中で蛹になります。そして、夏が来ると羽化して成虫になり、これを繰り返します。

ヘイケボタルの一生



出典：なりたの自然環境（2005年3月）

ホタルの分布状況

